

第5学年社会科指導略案

日時：平成31年2月8日（金）

児童：5年1組 男12名 女9名 計21名

指導者：住田町立世田米小学校 千葉 泰

消費者教育の視点：消費者市民社会（エシカル消費活動）の構築

- ・身近な消費活動が、社会や環境に与える影響について理解する。
- ・国内の林業や自然環境を守るという視点から、消費活動を考える。

1 単元名 森林と生きる

2 本時の目標

- ・日本の林業や自然環境の保護と身近な消費活動との関連を理解することができる。
- ・日本の林業や自然環境の保護のために、自らできる消費活動について考えることができる。

3 展開

段階	主な学習活動・学習内容	指導上の留意点（評価◎）	資料等
導入 10分	1 既習事項の確認 ・林業が衰退した理由は、安い輸入材を大量に輸入したからであることを確認する。 2 学習課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の林業や自然環境を守るために、自分たちにできることを考えよう。</div>	・「安い」「輸入」という言葉から消費を意識付ける。	画像資料 ワークシート
展開 25分	3 日本の取り組みを知る。（消費活動） （1）木づかい運動 ①炭素の貯蔵庫 ②日本の森林を守る ③海外の森林を守る （2）間伐材マーク （3）環境ラベル ・エコマーク、グリーンマークなど 4 話し合い ・これからどのような消費活動をすれば良いか考える。（エシカル消費の視点）	・消費活動によって課題を改善できることを意識付ける。 ・身近にある事例を紹介し、それぞれの取り組みが実際に行われていることを実感させる。 ◎日本の林業や自然環境の保護と身近な消費活動との関連を理解することができる。（ <input type="checkbox"/> 発言） ・指導内容 ①地球温暖化対策 ②日本の林業の保護 ③自然環境の保護 ④環境教育の啓発 ◎日本の林業や自然環境を守るための消費活動について考えている。 （ <input type="checkbox"/> ワークシート、発言） ・自らの消費活動が、社会に影響を与えることを捉えさせる。	木づかい運動 ①②③ 間伐材マーク 環境ラベル 実物
終末 10分	5 学習のまとめ （1）学習課題のまとめを行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の林業や自然環境を守るために、国産材を積極的に利用することも考えて買い物をする。 自然環境を守るために、買う前に環境ラベルなどを確認し、よく考えて買い物をする。</div> （2）本時の学習を振り返る	・日本の林業や自然環境を守るために、どのような消費活動をするか考えさせる。	

資料「木づかい運動①」

○木づかい運動とは
林野庁が、平成17年度から、木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として始めた運動です。木づかい運動は「エコ活動」です。

○木材は「炭素の貯蔵庫」
日本では戦後を中心に、先人たちが植林してくれた1000万haもの森林(人工林)が広がっています。将来、木材として利用するためなどに、苗木から育てられたいわば「木の畑」です。

これらの木の畑では、今、多くの木々が、収穫期を迎えつつあります。育ち盛りの若い木々は二酸化炭素をよき吸収しますが、成熟して、成長がおとろえた木々々々まきり吸収しなくなります。

森林は、二酸化炭素(実際には炭素)の貯蔵庫と言われます。それらの木々は、収穫されて、住宅や家具などの木製品に加工されても、貯蔵庫としての機能は変わりません。それゆえ、木製品は「炭素の缶詰」と言われます。また、成熟した木々々々を収穫し、住宅を建てれば、森林と同じような貯蔵庫が都市にもできます。このことから、木造住宅は「第二の森林」「都市の森林」などと言われます。そして、伐ったところに苗木を植え、育てることにより、二酸化炭素(CO₂)をどんどん吸収しながら成長し、さらに新しい貯蔵庫ができるのです。木づかい運動は、日本の木製品を積極的に取り入れ、身近に「炭素の缶詰」を増やしたり、都市に「第二の森林」をつくる国民運動なのです。

「木づかい.com <http://www.kidukai.com>. (参照 2019-2-3)」

考えてみよう!

ペンケースを買います。次の3種類から選ぶとしたら、どんなことを考えますか? (理由も)



○木のペンケース



○プラスチックのペンケース



○アルミのペンケース

資料「木づかい運動②」

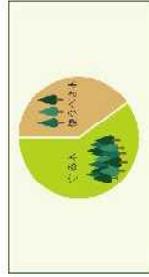
○木づかい運動とは
林野庁が、平成17年度から、木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として始めた運動です。木づかい運動は「エコ活動」です。

○木づかいは「日本の森林を守る」
「木を使うこと」と「森を守る」ことは矛盾しているように見えますが、「木を使う」とは、原生林や貴重な天然林など保護すべき森林の木を伐って使うのではなく、使うために木を育てている森林(=人工林、育成林)の木を使うことです。

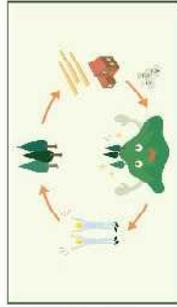


森林には「使うために木を育てている森林」と国立公園の一部や世界遺産などのように「保護すべき森林」があります。この「保護すべき森林」は、国や地方公共団体により、現在しっかりと監視・管理され、美しい景観とともに私たちに恩恵を与えてくれます。

しかし、日本の森林の4割を占める「使うべき木を育てている森林」は、十分に管理されているとは言いがたい現状があり、荒廃が目立つようになりました。この理由の一つは、海外からの輸入材が増え、日本の木(=国産材)の利用量が減ったためです。つまり、使うべき森林を育てても充てないため、間伐等の手入れをしても費用がかかり、採算がとれないのです。人の手が入らなくなった人工林等の森林は、手入れされない田畑と同じように荒廃してしまうのです。



これを打開するためには、**日本の木をもっと使うこと**。木材需要の相当量をまかなうほどの森林資源が日本にはあります。**日本の木が使われるようになれば**、日本の森林を育てる資金が山に還元され、健全な森林が育成される(荒廃から守る)ことになるのです。同時に、林業や地域経済の活性化にもつながることになります。
「木づかい.com <http://www.kidukai.com>. (参照 2019-2-3)」



○商品例



○テープカップター



○間伐材ファイル



○小物入れ

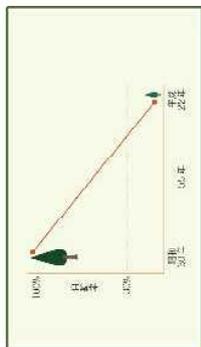
考えてみよう!

木を材料とする商品を買うとき、どんなことを考えていくと良いですか? (理由も)

資料「木づかい運動③」

○木づかい運動とは
林野庁が、平成17年度から、木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として始めた運動です。木づかい運動は「エコ活動」です。

○木づかいは「海外の森林を守る」
日本の木材利用量のうち、7割以上は外国産の木材です。一度に大量の木材が安定的に入手できるので、製紙、製材、合板、住宅、家具メーカー等、木材を大量に使う会社にとっては効率がよいのです。その結果、昭和30年頃には、ほぼ100%であった木材の自給率が、現在は3割以下になってしまいました。



ところが、**実際に輸入される木材は、どんな場所から、どのように伐採したのかかわからない場合が少なくありません。** 商業目的で違法に伐採された木材の可能性も指摘されており、日本と木材貿易の上で関係の深い**インドネシアでは、森林伐採の違法性が割合が50%を起しているという報告もあります。**結果として、東南アジアや南米等で森林破壊が進み熱帯雨林等の減少が目立っています。



これらを改善するために、**輸入材は、適切な森林から合法的に伐採されたことが証明されたもの（トレサビリティーが明らかな木材）を使うことが重要です。**そして、国産材と輸入材で相補うようにすれば、海外の森林を守ることになるのです。

「木づかい.com <http://www.kidukai.com> (参照 2019-2-3)」

○商品例 (トイレットペーパー)

- ・FSC マーク
世界でもっとも広く認められている森林認証制度です。大切な自然を守るために、森林や木材が適切に管理されているかどうか、切った分の木をきちんと植えているか、などをチェックしています。
- ・WWF マーク
WWFは約100カ国で活動している環境保全団体です。



考えてみよう！

木を材料とする商品を買うとき、どんなことを考えていくと良いですか？ (理由も)

資料「間伐材 (かんばつざい) マーク」

○間伐材マークとは
間伐材マークとは、間伐や間伐材利用の重要性をPRするためのものです。
このマークの目的は、間伐や間伐材の利用を進めることと、それを広めることです。



間伐材を利用すると、森が元気になりCO₂の削減につながります。また、間伐を行う林業も元気になるります。

使用例①) コンビエンスストア (セブンイレブン)



考えてみよう！

木を材料とする商品を買うとき、どんなことを考えていくと良いですか？ (理由も)

資料「環境ラベル」

○環境ラベルとは
 商品や包装にもどして作つくりかえた製品を「リサイクル製品」、環境へのえいさよ
 うが少ない製品を「エコ製品」と言います。
 リサイクル製品やエコ製品の多くは、目印としてリサイクルに關係するマークが付つ
 ています。
 このマークを「環境ラベル」といいます。

原料に古紙を規定の割合以上利用していることを示すグリーンマークを
 古紙利用製品に表示することにより、古紙の利用を拡大し、紙のリサイク
 ルを進めることを目的としています。



エコマークは、様々な商品（製品およびサービス）の中で、「生産」か
 ら「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、
 環境果全に役立つと認められる商品につけられる環境ラベルです。このマ
 ークを活用して、消費者のみならず環境を意識した商品選択を行ったり、
 関係企業の環境改善努力を進めていくことにより、持続可能な社会の形成
 をはかっています。



使用済み牛乳パックを原料として使用した商品につけられるマークです。
 「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」が、市民団体である「全国牛
 乳パックの再利用を考える連絡会」とともに管理・運営、普及を図ってい
 ます。



R100

古紙をまぜた製品につけられるマークです。右の数字は古紙パー
 センテージを表しています。

○商品例 ノート（日本ノート株式会社）



- 古紙/再生紙配合率100%の筆記用品は再生紙を使用しています。
- 表紙の色は発色別に5色に色分けされています。
- JISマーク商品です。(A4判) 76×105mm、A5判)
- 再生リサイクル促進のためのグリーンマークを表示しています。
- グリーン購入法に適合しています。
- FSC認証商品です。
- 子供にやさしい素材を使用した商品を使用しています。

考えてみよう！
 商品を買う時に、気をつけることとは何か？（理由も）

【児童の感想】

- ・間伐材マークやグリーンマーク、エコマークなど「世界にやさしい、地球にやさしい」製品をなるべく買い、何かの役に立つようにしていきたいです。
- ・輸入している木材に違法性があることや、環境ラベルのことなどを勉強したので、違法性のないFSCマークなどの環境ラベルが付いているような安全で安心して使えるような商品を買いたいです。
- ・環境ラベルのグリーンマークなどがあるか調べる。その木材は場所や伐採をした所が分かっているか調べる。新しい物を買う時は、できるだけ木材を使用した物を買う。
- ・木を材料とする製品をできるだけ買って、日本の林業を盛んにして、地球温暖化を防ぎたいです。
- ・WWF マーク、FSC マークなど、大切な自然を守るために森林や木材が適切に管理されていることが分かるものを買う。
- ・木の物を買う時は、リサイクルマークのついている物を買いたいです。そして、リサイクルを出来るように、物を大切に使うしていきたいです。自分で、いろいろ工夫をして、木の物を長く使っていきたいです。

【考察】

この授業の実践を通して、エシカル消費（買い物をする時、価格や品質だけでなく、環境への負担や人権、労働条件など社会的な背景まで考慮する商品や企業を選ぶこと）について児童に考えさせることができたと思う。木材の消費活動が、林業や自然環境の保護、環境問題の解決、公正な消費、企業への働きかけなど多面的に考えることができる教材だからである。児童は、住田町が「森林・林業日本一のまちづくり」を掲げていることから、普段から林業には関心が高く、誇りに感じている。自らの消費がその林業を支え、さらには、自然環境を守ることや地球温暖化を防ぐことにもなるということが、児童の消費者教育に対する関心を高め、理解を深めることにつながっていった。

反省点としては、資料の分量が多く、消費活動がどのような影響を与えることにつながるかを理解するまで時間がかかったことであった。精選しておけば、話し合いの時間を確保することができ、エシカル消費の理解がさらに深まったと思う。

今回の授業は教科書にあった「安い輸入木材にたよっています。」のたった一文を取り上げたものである。木材の消費（林業の活性化）に関わる運動や企業の取り組みが、予想以上に行われていることは驚きであった。実際、自分の身近にあり、普段から目にはしていたが気付いていない物ばかりだった。消費者教育は、児童に深い学びを行わせることができる有効な学習活動であるが、教科書の中にひっそりと隠れている。持続可能な消費活動を学ばせることは今日的な課題の解決につながることから、常に関心を持ち、研究・実践を行っていく必要があると感じた。